

# 東の風



やさしく  
かしこく  
たくましく

## No.33

平成29年6月29日(木)

文責：園田

学校教育目標：心豊かに 自ら学び たくましく生きる子どもの育成

## 梅雨に咲く傘の花



空梅雨かと思うような天気が続いていた今年の「梅雨」やっと梅雨らしくなってきました。

運動場や中庭など屋外での遊びが大好きな本校の子ども達にとっては、外で遊べず憂鬱な雨かもしれません。一方、先日5年生が「田植え」をしたように、農作物を始め、私達の日々の生活には「水」は欠かせませんから「恵みの雨」でもあります。「暑い」だの「寒い」だの、「雨はうとうしい」だの「雨がありがたい」だの、私達はつい、自分の都合によって物事を見てしまいがちです。

人は昔から様々な自然現象と自分達の暮らし、日々の営みとの「折り合い」をつけながら暮らしてきました。「雨」は「生命・命」への恵みです。「梅雨」は「命の営み」を感じる季節でもあります。その恵みを受け、木々

の若葉や水田の稲はこれから勢いを増し、ぐんぐん成長を見せるでしょう。

1学期も残り3週間となりました。子ども達も負けずにぐんぐんぐんぐん伸び、成長してほしいと思います。

## 「備え」の大切さ



「梅雨」・・・今日は、明日は晴れるのか？雨が降るのか？この時期はいつも以上に天気予報が気になります。毎朝、子ども達が登校する様子を見ていて、思うことが一つあります。それは「備え」ができていますかです。登校時は雨が降ってなくても、下校までには雨が降ることが予想（予報）される日があります。そんな朝、私は「子ども達が傘を持ってきているか」を見ています。子どもに「備え」ができていますかを見ているのです。私は「物事には何でも『備え』が必要。事がうまく進むためには事前の準備が大切だ」と思っているからです。

『備え』は、「自助力」をつけるために、そして「自分で課題に気づき、自分で正しく考え、自分で正しく判断し、自分で正しく行動する」ためになくしてはならないものです。

雨に濡れることは誰でも好まないでしょう。では、濡れないためにはどうするか。先を予想し、見通して行動することが必要です。出かける前に、「テレビその他の情報機器で天気予報を見て確認する」とか、「窓の外を見て空模様を確認する」などして、状況に応じて「傘を準備し持っていく」などの対応ができます。これは小学生であっても決して難しいことではありません。それこそ高学年であれば簡単なことだと思えます。低学年などは発達段階に応じて、ご家族が「今日は雨になるかも知れないから傘を持って行った方がいいと思うよ。」とひと声かけてあげてもいいと思います。それはやがて自分で考える力に繋がります。場合によっては、「濡れた時に履き替えられるように替えの靴下を持たせる」といった更なる備えも考えられます。

こんな対応が「備え」であり、子ども達の『自助力』の育成に繋がるはずで。明らかに雨が降ってくるのが予想される日に傘を持ってこない子は「車ですぐ近くまで登下校している子」に多いようです。ほとんど歩かないので、濡れる心配がなく傘の必要性を感じていないのでしょう。大雨でもないのに「車で送る」ことは決して備えでもなく、自助力にも繋がらないと考えます。

「今日は曇っているなあ。雨が降るのかな？ テレビで天気予報を見てみよう。やっぱり降るかもしれないな。傘を持って行った方がよさそうだな。よし、持っていこう・・・(数時間後)雨が降って来た。傘を持っているから安心だ。やっぱり持ってきてきてよかったなあ。」・・・自分でこう考え、こんな行動ができる子どもに育てたいものです。傘の準備を例えにしましたが、「備え」は何事においても大切な力です。

大人の役目、親の役目は子どもを「甘やかす」のではなく、「自分で生き抜くことのできる力」を身に付けさせることだと思っています。それには、日常の出来事における小さな学びの積み重ねが必要です。

